第１回関西創生有識者会議の開催結果について

Ⅰ　会議次第

１ 開催日時：	平成 28 年３月７日(月) 13:30～15:30
２ 場　　所：	関西広域連合本部事務局大会議室
３ 出 席 者：	五百旗頭座長、岡田委員、槙山委員、神田委員代理
４ 議　　事：	関西創生戦略等の策定について 関西人口ビジョン（案）について 関西創生戦略（平成 27 年度版）（案）について

Ⅱ　開催結果

１　概要

関西人口ビジョン（案）及び関西創生戦略（平成 27 年度版）（案）について、事務局から説明を行った。

事務局からの説明を踏まえ、各委員より中央省庁の関西移転、留学生や観光客の人口流入への影響など多様な意見が出され、五百旗頭座長より、関西創生戦略（平成 27 年度版）に反映できるものは反映し、そうでないものは次期広域計画の策定と合わせて検討のうえ反映する旨、とりまとめた。

２　主な発言内容

（国土の双眼構造への転換）

・　双眼構造より多眼構造（複眼構造）の方がよいのではないか。双眼というと、東京ＶＳ大阪のように見えてしまう。国土の多極化を進めていかないと、東京一極集中はなかなか是正されない。　**（槙山委員）**

・　神戸の視点から見ると、対東京ということも考えないといけないが、大阪府への流出も考えないといけない。二極化というイメージよりも多極化を進めていくという方が他の地域から見ると分かりやすいのではないか。　**（槙山委員）**

・　関西のよいところは、特別地方公共団体として関西広域連合が設立され、産業は大阪、文化・観光は京都、防災は兵庫、環境は滋賀のように、役割分担を行っている点がある。関西は大阪に一極集中するのではなく、役割分担がそれなりにあり、誇るべき個性を持っている。　**（五百旗頭座長）**

・　47 の都道府県に分かれているが、首都に対してある意味で対等の物言いが出来ない。下から上に陳情するという形になっている。東京一極集中を突破するために、やはり関西が双眼構造の一翼を担い頑張らないといけない。他のどこができるのか。　**（五百旗頭座長）**

・　関西経済連合会においては複眼と言っているが、双眼、複眼という部分については従来から広域連合とも意思疎通を図っており、目指しているところは同じだと思っている。そういう大目標に向かって、この機会を通じて更に強化して一緒に取り組んでいければと思う。　**（神田委員代理）**

（政府関係機関の関西への移転等）

・　文化庁がやっと関西に来るという状況になっているが、この中で詳しく書かれていないのが不思議に感じる。文化庁やそれに続くべきものについて、もっと具体的な記載とすべきではないか。　（五百旗頭座長）

・　文化庁の京都移転について、経済界も広域連合と一緒に要望を行っている。成功に結び付けることが大事だと思うので、どれだけ書けるか分からないが、移転に関する取組なども記載していただければと思う。　（神田委員代理）

・　阪神・淡路大震災を通じて、科学的な防災の研究を行うシンクタンクとしてひょうご震災記念 21 世紀研究機構を設立した。南海トラフ地震などが起きたときに東京も被災者となることも考えられるので、東京と関西の二極体制で考えなければならない。　（五百旗頭座長）

・　防災庁に関し､関経連としては東京での大規模災害時の代替機能として、数年前に西日本危機管理総合庁の提言をさせていただいており、関西広域連合の考え方と方向は同じだと思っている。経済界としても一緒に検討させていただければと思う。　（神田委員代理）

（人口減対策、地域の魅力向上・情報発信）

・　女性の正規雇用に関し、地域の中で働き、産み、育てる環境をつくることも大事。自治体ごとに就業サポートに加え、関西広域連合として、マッチングを進め、圏域内に人口をとどめる取組があってもよい。若者についても同じ。　（槙山委員）

・　関西では、働く場所がないというよりは、若い人との間で、求めている職種とミスマッチが起きているのではないか。関西には希望する職種がないのではないか。　（槙山委員）

・　企業の集積は一つの魅力。神戸ではＩＴの会社が頑張っており、ＩＴの会社などはそれほど東京にある必要はない。戦略的な集積を進めていくことも大事なのではないか。　（槙山委員）

・　そこに住むかどうかは、しごととその地域に魅力があるかどうかの二点。関西全体は魅力があるところなので、どう知ってもらうかと発信力が大事。既存のメディアが発信する情報だけでなく、地域全体として発信力を獲得していることが大事となる。　（槙山委員）

・　関西にはよい大学がたくさんあり、留学生が関西で就職するということは非常に大きい。人口増に結び付けたい。また、観光客の爆発的な増大は、一時的には少なくとも大きな支えになっているので、関西でもそれをしっかりと受け止め、それを持続化していくことが大事になる。　（五百旗頭座長）

・　新しい産業を関西につくることが大事。観光と健康・医療産業は産官学で芽を育て、企業や雇用にかえってくる視点が必要。　（神田委員代理）

・　欧米のように、既存のメディアが情報を発信しなくてもファッション情報などが世界に出て行くような地域づくりをこれから考えていかなければならない。関西の食文化なども素晴らしいものがあるので、うまく広域的に結び付け、ブランド化していく取組も行えるのではないか。　（槙山委員）

・　世界中から人が集まってくるようなイベントの創設も一つの手段ではないか。そこで情報が発信されていく。関西のポテンシャルがあれば、色んなことがやれると思う。各自治体だけではお金のない時代なので厳しいかもしれないが、広域連携で仕掛け、地域全体の発信力を高めていけば、その地域に住みたいという人も増えてくると思う。　**（槙山委員）**

・　ルーブル美術館のような、世界のマンガ・アニメ館を関西につくれば世界中の若者が殺到するのではないか。　**（五百旗頭座長）**

（インフラ関連）

・　インフラに関し、空港関連の記述がない理由は何かあるのか。　**（槙山委員）**

→　３月５日に開催された連合委員会においても指摘されており、記載内容については調整を行う。　**（事務局）**

・　概要版に関して、ミッシングリンクやインバウンドなどに関し、陸・海・空を揃えて具体的に施策に記載する方がよいのではないか。　**（神田委員代理）**

（関西創生戦略の進め方等）

・　関西全体で、関西広域連合以外が主体となっている部分、構成府県市が主体となっている部分も含めて創生という意識を持つべきだと思う。創生戦略と広域計画、予算と事業が一体となるように期待したい。　**（神田委員代理）**

・　交付金の申請について、事業主体として実績をつくることは重要なので、国の動きに合わせて具体的に進めてほしい。　**（神田委員代理）**

・　地方創生の中で銀行が行える役割は、直接的には資金供給と地域産業の発展への寄与にあるが、マッチング、情報同士をつなぐという二つ目の機能も自覚している。お金のことだけでなく、ほぼ全ての産業とのつながりを持っているので、このようなつながりを持って取り組めるというところに参画のしがいがあると感じている。人・情報・お金という３つのアイテムで貢献できるよう頑張ってまいりたい。

（岡田委員）

・　人材育成について、女性や留学生など、関西の将来を担う視点も入れていければと思う。　**（神田委員代理）**

（座長とりまとめ）

・　文化庁とそれに続くべきものについても明示すべき。観光客の爆発的な増大を受け止め、それを持続化していくことも追加すべき。

・　今回の意見については、事務局と相談の上、関西創生戦略（平成 27 年度版）もしくは、次年度、次期広域計画の改定と併せた検討を行い改定版に反映予定（扱いについては、座長に一任）。

・　3 月 24 日連合委員会で最終的な協議を行い、平成 27 年度版の関西創生戦略をとりまとめる。